

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門」
まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	一まちとアートの「出会い」から「おもてなし」へー 継続的な長者町界隈の魅力発信		
団体名	長者町アートアニュアル実行委員会		
提案の活動を行う地域	長者町界隈（名古屋市中区錦二丁目）		
提案の内容	<p>戦後、日本三大繊維街の一つとして発展し、問屋街のイメージが強い長者町界隈は、2000年よりシャッターペイントやリノベーションプロジェクト、まちづくり活動などを通し、そのイメージは多様化しつつあります。とりわけ、2010年に行われた「あいちトリエンナーレ2010」では「アートなまち」としての一面を強くアピールし、新たなまちの魅力発信へとつながりました。</p> <p>この「アートなまち」のイメージを定着させていくため、2011・2012年に引き続き、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まちとアートの出会いを継続していくこと 2. まちの魅力の再発見・再創造をしていくこと 3. 年間を通じ長者町界隈ならではのアートを発信していくこと <p>を目的に各事業を行います。</p> <p>昨年度は、まちとアートの「出会い」による長者町の魅力発信として、季節ごとに実施する、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長者町界隈まちかどアート・アートマップ 年に一度実施する、 2. 長者町多びす祭りでの山車（作品）の運行、アートイベント 年間通じて実施する、 3. 広報、情報発信 <p>の三本柱を実行し、多様な担い手の参加へとつなげました。</p> <p>今年度は、これらの活動の三本柱に「おもてなし」の要素を加え、活動実施していきます。</p> <p>具体的には、7月下旬に新たに増える制作スタジオ拠点をベースに、まちかどアートを設置することはもちろん、来街者と地元の方々、アーティストをつなぐためのおもてなしスペースを設営し、日常的な情報発信スポットとしても機能するようなソフト・ハード両面を仕掛けます。</p> <p>一方、イベント時にも、山車のように来街者を巻き込み、楽しめるようなプロセス型の作品を新たに展開していくことで、これまでの参加者層をさらに広げ、長者町界隈の魅力発信につなげる取り組みを行います。</p>		
活動期間	平成25年4月～平成26年3月	助成金交付申請額	50万円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の4つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感 が得られる活動か
<p>(提案活動の必要性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。</p> <p>「あいちトリエンナーレ 2010」でまちなか会場となった長者町は、愛知県、地元企業、まちづくり団体、サポーター、ボランティア、来場者など多様な主体が協働することで、アーティストにとっては、ダイナミックな作品制作を展開でき、まちにとっては、隠された地域の魅力発見と再創造につながりました。まちとアートの相乗効果を一過性のものにするのではなく、トリエンナーレ後の2年間の経験と関係性を活かし、市民が自主的に継続して、まちの魅力発信への仕掛けを行うことで、日常的なものにしていきたいと考えています。</p> <p>さらに今年度は、2回目となるあいちトリエンナーレを迎えるにあたり、今までの活動で紡いだ成果を「まちの発意による来街者へのおもてなし」として還元していけるような活動をしていきたいと考えています。</p>	
審査基準② 独創性	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<p>(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <p>一日だけのにぎわい創出を目的としたアートまちづくりではなく、定期的に継続してアート作品や大小の関連イベントを行ったり、アーティストがまちに日常的にいられる環境を育むことで、「いつ来ても、何か変化が起きる魅力的なまち」を創出します。</p> <p>また、アートマップや情報発信を通じ、来街者がまちを歩くことで、アートからまちの歴史や文化へと関心の幅を広げられる土壌をつくり、多様な「長者町ファン」を生み出していきます。</p> <p>とりわけ、今年度は、2回目となるあいちトリエンナーレを迎えるにあたり、「まちの発意による自発的な来場者へのおもてなし」のための空間の運営を計画しています。</p>	
審査基準③ 実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的になっているか ・事業予算は妥当か
時期	活動内容
平成25年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 平成26年1月 2月 3月	関係各所との調整、会議 おもてなし拠点の準備 おもてなし拠点のオープン 真夏の長者町大緑会（まちかどアート）の開催 びす祭りでの山車の運行、新たな作品の展開 成果報告書の作成 成果報告書の完成、アーカイブ化
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> あいちトリエンナーレ 2013 (8.10~10.27) </div>	
情報発信	

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
1. 長者町界限 まちかどアート	諸謝金	作家協力費(2~3名)	150,000
	消耗品	制作費	180,000
	会場費	テント使用代	20,000
	印刷費	イベントチラシ印刷代	70,000
	雑費	イベント保険ほか	30,000
2 山車運行、 アートイベント	諸謝金	作家協力費、 ^{外部} スタッフバイト代	80,000
	消耗品	制作費	50,000
	雑費	山車維持費	300,000
	会場費	テント使用代	20,000
3. 広報、情報 発信	通信交通費	HP制作、管理費	40,000
	原稿費	報告書2013英語翻訳費	60,000
計	都市センター助成金 500,000円 自己資金 500,000円(寄付金500,000)		1,000,000

審査基準④ 発展性

- ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
- ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

これまでの活動で培ったまちの地元組織(組合や町内会)と愛知県文化情報センター、あいちトリエンナーレサポーターズクラブや大ナゴヤ大学、愛知工業大学などとの協働関係を生かし、それら団体の間をつなぐプラットフォームとしてより機能し、イベント等のソフト面だけでなく、ハード面の環境整備も視野にいった団体運営をしてきました。今年度は、これらに加え、まちとしてのおもてなしの仕掛けをハード・ソフト面両方から実施していくことで、情報の「発信」だけでなく、「受信」ができる環境づくりを行い、長者町界限に頻繁に来てみたいと思える魅力的なまちのブランディングへとつなげていきます。

審査基準⑤ 活動実績と主体性

- ・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか
(団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。)
- ・具体的にどんな熱意を注いでいるか

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。
 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。
 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。

長者町アートアニュアル実行委員会は、「あいちトリエンナーレ2010」終了直後の11月下旬、継続的なアートまちづくりを推進するためにまちの有志で結成された任意団体です。発足一年目の2011年は、アートまち歩きや長者町で活動する多様な団体と「真夏の長者町大縁会」を新規で共催し、地元の祭り「長者町ゑびす祭り」にて山車(作品)を運行、年間作品をまちかどウィンドウに展示しました。二年目の2012年は、上記のイベント開催に加え、アーティストや多様な活動団体の拠点整備を進め、滞在空間や制作空間、会議空間の運営を開始するなど、イベント開催からプラットフォームづくりに至るまで、地元町内会や各団体と協働しながら、多様な役割を担おうとしています。

※第2号様式は、3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とします。